

矢祭子ども司書になった君たちへ

みなさん、この八か月間、子ども司書になるためのいろいろな講座を、よくぞ休むことなく、しっかりと受講しましたね。

矢祭町は、人口が少なくても、全国の人たちから寄贈された四十五万冊もの蔵書のある「矢祭もったいない図書館」を中心に、様々な読書活動や絵本普及活動などを、十年以上も続けている、子育てや教育に熱心な町です。

全国ではじめて子ども司書の育成を始めたのも矢祭町です。

このように、子どもの成長を大切に、町の人たちの心の持ち方を大切にする取り組みを、私は「知的なふるさとづくり」と呼んでいます。矢祭町は、「知的なふるさとづくり」に取り組んでいる自治体の一つと言えます。

そのようななかで、君たち七名が第十一期の子ども司書に自ら進んでなろうとした心意気に感動し、全員が認定式を迎える今日の日を楽しみにしていました。

講座の内容は、図書館の仕事の学びだけでなく、ビブリオバトルやおはなし会の計画、読み語りの練習から俳句作りまで、とても楽しかったでしょう。君たちと同じ学年の子どもたちが、大勢いるなかで、数少ない君たちだけが、学校での授業とは全く違う特別な学びをしたのです。それは、君たち一人ひとりのチャレンジ精神の果実です。自分のことを、大いに誇りに思ってください。

では、次なるチャレンジは、何なのか。それは、子ども司書として、矢祭町の「知のふるさとづくり」のために、どのようなことをするかを、まず考えることです。

今日は、君たちの新しいスタートの日です。
君たちのこれからの活動に期待しています。

令和二年二月二十二日

ノンフィクション作家 柳田 邦男